

安全の手引き

在パラグアイ日本国大使館

在エンカルナシオン領事事務所

(2025 年 1 月 31 日改訂)

I はじめに.....	1
II 防犯の手引き.....	2
1. 犯罪発生状況.....	2
2. 犯罪の傾向.....	2～3
3. テロ・誘拐等.....	3
4. その他.....	3～4
III 安全のための心構え.....	4
1. 基本的心構え.....	4
2. 安全のための心構え.....	4～7
IV 緊急事態対処マニュアル.....	8

I はじめに

パラグアイは、ボリビア、アルゼンチン及びブラジルと国境を接することから、違法薬物の流通経路となっています。アスンシオン市やその周辺都市の主に商業地域において、麻薬中毒者による麻薬購入資金調達目的による、強盗事件が頻発しています。また、ブラジルとの国境を接する地域やアスンシオン市及びその周辺都市では、ブラジルの麻薬密売組織「Primer Comando de la Capital (PCC)」のメンバーが潜伏しており、対立する組織同士の殺人事件が確認されているほか、同組織の関係者が強盗などの一般犯罪に関与している事例も多く報じられています。近年は世界各地で内乱やテロ事件、大規模自然災害等が発生しています。一般犯罪の被害に遭わないように対策を取ることは勿論のこと、このような緊急事態にも対処できるよう、常日頃から最新の情報を入手し「自分の身は自分で守る」という意識を持つことが大切です。

在留届、たびレジ登録のお願い

- 「在留届」は、緊急事態発生時等において、大使館から緊急連絡等を行うための重要な基礎資料となり、旅券法により海外に3か月以上滞在する場合は、大使館・総領事館へ「在留届」の提出が義務付けられています。（手続きは下記 URL からオンラインで申請が行えるほか、書面で行うこともできますので、詳しくは当館領事班（+595 21 604 616（代））へお問い合わせください。）
- 「たびレジ」に登録すると、旅行等、短期滞在時に安全のための緊急情報等をメールで受け取ることができます。旅行等の場合は、忘れずに「たびレジ」への登録をお願い致します。

☐ オンライン在留届（帰国や転居等の内容変更もこちらから）

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>

☐ たびレジ

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

Ⅱ 防犯の手引き

1. 犯罪発生状況

年	殺人		傷害	暴行	性犯罪	強盗	窃盗	合計
	既遂	未遂						
2021	493	925	1,384	3,399	640	3,219	8,042	18,102
2022	511	913	1,615	4,031	893	4,459	10,885	23,307
2023	442	969	2,018	5,067	1,006	5,259	12,464	27,225

※出典：パラグアイ国家警察庁統計

一般犯罪は前年比約 16.8%増と全体的に増加傾向にあります。上記統計はあくまでも国家警察庁独自の統計数値であり、被害届を提出しないケースも多く見受けられることから、実際にはこれ以上の発生があると考えられています。

2. 犯罪の傾向

(1) 強盗(路上強盗)、ひったくり

オートバイに乗車した二人組や自動車に乗った集団が、歩行者、停車中のオートバイ、窓の開いた自動車等から、携帯電話やバッグなどの貴重品を強奪する事件が、主にアスンシオン都市圏及びエステ市において多発しています。犯人は武装していることが多く、被害者が抵抗した場合、拳銃、刃物等の凶器により被害者に危害を加える事件も少なくありません。また、イタプア県エンカルナシオン市では、路上強盗の発生件数は比較的少ないですが、観光客を狙った盗難被害が頻発していますので、注意が必要です。

(2) 薬物犯罪

パラグアイは隣国で生産されたコカインの輸送ルートとなっているほか、国内においても、麻薬組織に関連した大麻が地方の山林で生産されていると言われています。また、クラックと呼ばれるコカインを加工した安価な薬物の入手が容易で、若者を中心に麻薬中毒が社会問題となっています。特に低所得者層の麻薬中毒者が麻薬購入費用を得るために強盗などの犯罪に及ぶケースが多発しています。

(3) 金融機関の利用客を対象とした強盗

ATMなどから現金を引き出した直後に、店舗の外で数人に囲まれて現金を強奪されるケースや、移動先まで後をつけられて被害に遭うケースも発生しています。

(4) 空き巣被害

マンション、一軒家を問わず、隣人、警備員、使用人、出入り業者等身近な人間から住人の不在情報が漏れ出て、空き巣の被害に遭うケースが多いとされています。

(5) 住宅強盗

2023 年、アルト・パラナ県イグアス市、ミンガ・グアス市等において、オートバイや自動車に乗った武装集団が住宅に押し入り、住人を拘束した上、現金、携帯電話、貴金属、家電、農機具などを強奪する犯罪が頻発しました。2024 年には、イタプア県の民家に何者かが押し入り、金品を強奪された上に邦人が殺害される強盗殺人事件が発生しました。これら住宅強盗被害は、空き巣被害同様、現金の引き出しや取引等に関する情報が身近な人から漏れ出ることにより、標的になる可能性が高いと言われています。

(6) 国内の危険地区

アスンシオン市内セントロの通称チャカリータ地区及びバニヤード・スル地区といった川沿い周辺には多くの貧民街が存在しており、これらの地区には違法薬物の取引、殺人、強盗などに関与している犯罪者が多く潜伏していると言われています。特にチャカリータ地区は警察でも単独では立ち入らない程、パラグアイでも非常に危険な地域であり、2024 年には、ギャング同士の抗争による発砲事件が相次いで発生しました。また、アルト・パラナ県プレジデnte・フランコ市内にも貧民街が存在し、強盗、薬物犯罪などに関与している犯罪者が多く潜伏していると言われています。

(7) 特殊詐欺

ネット交流サービス(SNS)を使った非対面の方法で、被害者に恋愛感情を抱かせ、個人的トラブルの解消を理由に送金を要求する事件(ロマンス詐欺)、大使館職員、政府関係者、国連職員などを騙り、不安を煽るような話を持ちかけ送金を要求する事件が発生しています。

3. テロ・誘拐等

(1) 概況

これまで、パラグアイにおいてテロと認められる事件は発生しておらず、国内におけるテロ組織も報告されていません。

(2) 国内での発生状況

パラグアイ国家警察庁によれば、2023 年に発生した誘拐事件として4件が認知されています。サン・ペドロ県、コンセプシオン県及びアマンバイ県の一部では、パラグアイ人民軍(EPP)と称する反政府組織が身代金目的の誘拐などの事件を頻繁に引き起こしてきました。現在でも3件が未解決事件となっているものの、2022 年以降国家警察庁による掃討作戦が行われて主要メンバーの多くが殺害、逮捕されたことにより、同組織による目立った活動は減少傾向にはありますが、2024 年1月には、同組織の関与が疑われる農場襲撃事件が発生しています。

(3) 近隣国との関係

パラグアイ、ブラジル、アルゼンチンと国境を接している三国国境地帯は、パラグアイ側の国境管理が脆弱であり、パラグアイ、ブラジル、アルゼンチンによる三国共同

捜査部隊が取り締まりに当たっているものの、組織犯罪の関係者が容易に出入国可能な状態にあり、十分な治安対策が行われているとは言えません。また、アルト・パラナ県エステ市及びブラジル側のフォス・ド・イグアス市には、イスラム・コミュニティがあり、その一部にはイスラム過激派へ資金援助をしている者がいるとの情報もあります。

4. その他

(1) 麻薬組織犯罪

特にブラジルと国境を接する地域やアスンシオン市及びその周辺都市において、ブラジル麻薬組織(PCC)や敵対する麻薬組織などの抗争による殺人事件が頻発しています。同組織の関係者が、強盗などの一般犯罪に関与している事例も多く報じられています。

(2) 地方都市

アスンシオン市に比べると一般犯罪の発生率は低くなるものの、全国的な社会問題となっている飲酒による喧嘩や家庭内暴力から殺人に発展する事件や、農村部では家畜窃盗による被害も少なくありません。また、農民や先住民等が動員された抗議活動(デモ)や、道路封鎖なども度々発生しています。

(3) ボリビア・アスンシオン間のルート

ボリビアとアスンシオン間のルート(チャコ地方。ボケロン県、プレシデンテ・アジェス県)の土壌は、水はけが悪く降雨による道路の冠水が頻発するため、主要な国道以外の道路は舗装されていない場所も多く、車両が立ち往生する事案が度々発生しています。周囲に物資を調達できる商店などが非常に少なく、携帯電話が通じないエリアも多いため、水、食料、燃料などは余裕を持って携行し、無理のない移動計画を立てることが重要です。

(4) 交通事情

交通マナーが悪く、飲酒運転や無謀運転が横行しているほか、整備不良で灯火装置が故障した車も多いため、運転する際には注意が必要です。また、自動車保険への加入率が非常に低く、相手方の過失による事故において被った損害が賠償されない場合も少なくありません。交通インフラが脆弱であり、降雨時には路面の陥没、道路の冠水、信号機の滅灯などが頻発しています。

Ⅲ. 安全のための心構え

1. 基本的心構え

(1) 家族や職場の同僚と、常に連絡を取れる体制を取っておいてください。

※自分や家族の安全は、自分たち自身で守るとの心構えを。

(2) 出勤や帰宅の際、時間帯やルートは時々変えるようにしましょう。

(3) 外出中は周囲の警戒に努め、自宅でも戸締まりを徹底しましょう。

(4) 新聞、テレビ、インターネットのニュース記事、大使館のホームページなどで情報収集を行い、犯罪の傾向や国内情勢の把握に努めてください。

□ 大使館ホームページアドレス

https://www.py.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

2. 安全のための心構え

(1) 住宅

- ① 住む場所の安全対策は生活の基礎となるので、ホテルや住宅選びは、安全性を優先しましょう。
- ② 周囲に街灯があること、地域の治安状況、冠水しやすい場所等の周辺環境も確認しましょう。
- ③ 外壁の高さ、施錠設備、窓柵等を確認しましょう。
- ④ 訪問者は、必ず覗き窓等で相手を確認し、扉を閉めたまま用件を聞くようにしましょう。
- ⑤ 家への出入りや、エレベーターに乗る前には、周りに不審な人がいないか確認しましょう。

(2) 外出

- ① 主に携帯電話やスマートフォンが強盗のターゲットとなるため、建物内や車内など安全が確保された場所で操作するよう心掛け、路上では不用意に露出させないようにしましょう。
- ② 貴重品は可能な限り分散して所持するようにしましょう。パスポートなど特に大切なものは、服の下などに隠して所持し、万一強盗被害に遭った際には、差し出すための多少の現金を分けて所持しておくことも、被害の軽減に有効です。
- ③ 貴重品は必要な分だけ持ち歩くようにしましょう。
- ④ 移動中は不審な人物やオートバイが接近してきてないか周囲の状況に注意し、危険を感じたらすぐに近くの建物や商店などに避難してください。
- ⑤ 市街地においては、信号待ちで車内の荷物や携帯電話が狙われるケースも多いため、車での移動中はドアロックをして、手を差し入れることが出来ない程度に窓を閉めておくようにしましょう。外部から車内が容易に伺い知れないようスモークフィルムを貼付けることも防犯対策上有効です。
- ⑥ 車の乗降時は、周囲を警戒するように努め、外部から見える場所には物を放置しないように心掛けましょう。
- ⑦ 自動車を駐車する場合車外から見える場所に物を置かないようにしましょう。
- ⑧ 人通りの少ない場所や夜間は、強盗被害に遭うリスクがより高くなるため、可能な限り徒歩移動を避けて、自動車による移動など、より安全な移動手段を選択するよう

にしましょう。

⑨路上生活者や物売りは、相手が子供であってもナイフ等の凶器を持っている場合があります。また、隙を見せれば所持品等をひったくられることもあるため、決して油断しないようにしましょう。

⑩金融機関の利用客を狙った強盗事件が多く発生しているため、大型商業施設等の警備が行われている金融機関を利用する、利用後は時間をおいてから退店する、移動ルートを変更するなど警戒を怠らないようにしましょう。

⑪公共バス内ではスリや置き引きが頻発しています。持ち物からは目を離さず、周囲を警戒する姿勢を示すようにしましょう。

⑫アスンシオン市内のチャカリータ地区やバニヤード・スル地区といった危険な地域には近付かないようにしましょう。

⑬犯人が凶器を所持している可能性は非常に高いため、万一、強盗などの犯罪に遭遇した場合は、絶対に抵抗しないようにしましょう。

⑭発砲事案に巻き込まれた場合は、「身を伏せる」「姿勢を低くして速やかにその場から離れる」「硬い障害物に身を隠す」などして自分の身を守るようにしましょう。

(3) 生活

①自宅には水や食料など余裕をもって1週間分以上は備蓄するようにし、自動車の燃料は半分を目安に給油するなど、緊急時に備えて日頃から備蓄するようにしましょう。

②休暇等で自宅を空ける際は、家族や信頼の出来る友人等に限定して、行き先を伝えるようにしましょう。

③住居やアパートの隣人、警備員、使用人、出入り業者などから情報が漏れて、空き巣被害につながるケースもあるため、これら生活に身近な人とは良好な関係を維持しつつも、過信しないように注意しましょう。

④緊急時に必要な連絡先は携帯電話に登録しておくだけでなく、紙面でも書き留めておくようにし、いつでも連絡できるようにしておきましょう。

⑤パラグアイにおいてもクレジットカードやデビットカードのスキミングによる被害報告があるため、ATM利用時やカード決済の際は、不自然な器具等が取り付けられていないか注意しましょう。クレジットカードやデビットカードによる決済は面前で行い、疑わしい店では現金でも支払えるように、あらかじめ現金を準備しておきましょう。

⑥海外でも振り込み詐欺(オレオレ詐欺)の被害者となるリスクがあります。被害に遭わないため、家族、職場の同僚とは、いつでも連絡できるようにしておきましょう。犯人は、「焦らせる」「急がせる」ことのプロです。振り込みは、決して慌てて行わず、必ず家族や会社同僚に確認を取ってから行うようにしましょう。

IV 緊急事態対処マニュアル

平素の準備と心構え

- ・在留届の提出
～3ヶ月以上滞在する場合は必ず提出をお願いします。
- ・たびレジの登録
～登録しますと、海外旅行・出張の際等に大使館からの緊急一斉通報メールを受け取ることができます。
- ・連絡体制の整備
～緊急連絡網は最新版ですか？
- ・ラジオ等情報入手方法の確保
～ラジオ等の準備
- ・避難場所の確認
～日頃から緊急時の避難場所を確認しておいて下さい。
- ・携行品及び非常用物資の準備
～旅券等貴重品はすぐに持ち出せますか？
～飲料水、非常食、医薬品、懐中電灯、モバイルバッテリー等の非常持出品を準備していますか？

緊急時の行動

- ・基本的な心構え
～緊急事態が発生した場合に備え、普段から様々な情報の収集に心がけ、そのために、緊急時の連絡方法の確認や確保等に努めて下さい。
- ・情報の把握
～緊急事態が発生した場合、様々な情報が出回りますので、デマや噂に惑わされず、まずは自分が所属している団体等から正確な情報を入手して下さい。
- ・大使館(領事事務所)への通報依頼等
～自主退避した場合は、必ず避難先、安否等の連絡を大使館等へお願いします。また、可能であれば現場の状況を教示願います。
- ・国外への退避
～パラグアイと国境を接しているブラジル、アルゼンチン、ボリビアへの入国にビザは必要ありませんが、感染症に関する入国制限についてあらかじめ確認が必要です。

デマ等に惑わされず、まず
落ち着いて行動を！

<緊急避難場所>

- 現在地が
- ・アスンシオン市に近い場合
→在パラグアイ日本国大使館
 - ・セントラル県イタグア市に近い場合
→セントロ日系運動施設
 - ・パラグアリ県ラ・コルメナ市に近い場合
→ラ・コルメナ日本文化協会会館
 - ・アマンバイ県ペドロ・ファン・カバジェロ市に近い場合
→アマンバイ日本文化協会会館
 - ・イタプア県エンカルナシオン市に近い場合
→エンカルナシオン日本人会会館
 - ・イタプア県チャベス移住地に近い場合
→チャベス日本人会会館
 - ・イタプア県ラ・パス移住地に近い場合
→ラ・パス日本人会会館
 - ・イタプア県ピラポ移住地に近い場合
→ピラポ日本人会会館
 - ・アルト・パラナ県イグアス移住地に近い場合
→イグアス日本人会会館
 - ・アルト・パラナ県エステ市に近い場合
→エステ日本語学校

◎NHKの短波ラジオの周波数
(NHKワールドラジオ日本)

・周波数 12025kHz (05:00～07:00)

※ 放送時間は、パラグアイの現地時間です。
(サマータイム時は、放送時間が1時間早まります。)

<緊急時に備えてのチェックリスト>

1. 旅券は6ヶ月以上の有効期限がありますか？ ☐
2. 現金、貴金属、クレジットカード等はすぐに持ち出せますか？ ☐
3. 自動車等は長距離走行が可能ですか？ ☐
4. 携行品(衣類、履き物、洗面具、非常食、医薬品等)はすぐに持ち出せますか？ ☐
5. ラジオ(電池式)は持っていますか？ ☐
6. 懐中電灯、ライター、ナイフ、缶切り、割り箸等を準備していますか？ ☐

○在パラグアイ日本国大使館

021-604-616

○在エンカルナシオン領事事務所

071-202-287

○救急.....141

○警察.....911

日本人会等緊急連絡先

- パラグアイ日本人会連合会
TEL:021-555-213
FAX:021-555-770
- パラグアイ日本商工会
TEL:021-613-533
FAX:021-613-533
- アスンシオン日本人会
TEL:021-553-357
FAX:021-559-563
- アマンバイ日本文化協会
TEL・FAX:0336-272-529
- イグアス日本人会
TEL:0632-20-243
FAX:0632-20-468
- エステ日本人会
TEL・FAX:061-570-037
- ラ・コルメナ日本文化協会
TEL・FAX:0537-223-355
- セントロ日系
TEL・FAX:021-608-736
- エンカルナシオン日本人会
TEL:071-202-268
FAX:071-202-267
- ピラポ日本人会
TEL:0768-245-223
FAX:0768-245-371
- ラ・パス日本人会
TEL・FAX:0763-20-009
- チャベス日本人会